

<全体分析>

試験時間 60 分

<p>解答形式 全問マーク式</p> <p>分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化) ※大問5題。各大問ともに小問数は8問で、総マーク数は40。</p> <p>出題の特徴や昨年との変更点 地誌分野2題、系統地理分野3題で昨年度と同じであり、本学の標準的な出題構成となっている。正誤判定や統計判定が中心で、本学の標準的な出題形式にも変化はない。思考力よりも知識力を問うものが多い。</p> <p>新課程を踏まえた出題 大問V(3)では、地図・統計の読み取り・分析問題、V(4)では図の空欄補充問題が出題された。従来の知識型問題とは異なり、与えられた条件から正答を導く出題となっている。</p> <p>その他トピックス 特になし。</p>
--

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	マーク式	北アメリカ地誌	地図・統計利用。気候、地形、州別農産物生産、都市構造、各都市の特徴、北アメリカ3か国の発電源別発電割合、日本の輸入品目などに関する設問。(2)各地域にみられる地形に関する細かな知識が必要。(7)や(8)は普段からの統計学習が不足していると難しい。	標準
II	マーク式	東南アジア地誌	地図・統計利用。自然環境、海域の特徴、宗教、政体、APECとASEAN、米の生産・輸出統計、日本の輸入品目などに関する設問。平易な問いも多く全体的には得点しやすいが、(4)の政体や(6)のAPECとASEANの本部や事務局に関する問いは、やや細かい知識が必要で難しい。	標準
III	マーク式	貿易・交通	統計利用。各経済共同体の貿易額、各国の貿易額と貿易依存度、各国のOPECからの原油輸入、電力・再生可能エネルギーに関する輸出入、日本の品目別輸入先、運河、世界各国や日本の国内輸送などに関する設問。(1)~(3)の貿易に関する統計問題は、統計学習が不足していると難しい。	やや難
IV	マーク式	都市	統計利用。都市の気候、各首都の標高や気温・降水量、立地、首都、都市機能、都市圏、4道県の人口上位3都市の人口割合などに関する設問。(1)ヒートアイランド現象の顕著な季節は間違えやすいと推測する。(2)~(6)の各都市に関する問いは、それぞれの都市の位置がイメージできないと正答を導くのが困難だろう。	やや難
V	マーク式	農業	地図・統計利用。農業の生産性、小麦と米の生産・輸出国、各道県の肉用牛飼育頭数に関する図の読み取り、焼畑の輪作形態、農業と食料生産をめぐる課題、日本における木材需給などに関する設問。(1)は生産性の相対的な位置づけが不明瞭で分かりにくい。(3)(4)は図の読み取りと分析を必要とする問題で、目新しい形式。とくに(4)の焼畑の輪作形態には混乱した受験生も多いだろう。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

例年地誌を中心とした出題が多い。教科書では扱わないような細かな国についてもある程度の知識（自然や気候・宗教・民族・経済・政体など）を身につけておく必要がある。ただし、それらの知識は基礎的事項の延長線上にあるに過ぎず、常にそれらの事項や背景を論理的に整理しておくことが入試対策の近道である。統計や地図を用いた出題が多いのが本学の特徴であるため、最新の統計を確認しておき、地名（山脈や河川、海域などや国・都市）と地図上の位置を一致させておくことが求められる。地理用語の正確な理解も必須である。教科書や用語集などを用いてしっかりと確認しておきたい。また本日程では地形図の読図問題は出題されなかったが、昨年度は本日程で出題されており、いずれかの日程では1題出題されると考えておいた方がよい。地図記号の理解なども含めてしっかりと準備しておきたい。最後に、例年類似した問題が出題されているため過去問研究は必須である。常に地図帳と統計を傍らにおいて総合的な学習を心がけよう。